

『風は南から』

令和6年度 校長室便り
(1月8日)(第19号)



2025年がスタートしました!



今年「巳」年です。へビは、脱皮を繰り返して成長していくさまから、「復活と再生」のシンボルとして縁起の良い動物とも言われているそうです。新しいことにいろいろ挑戦して、たとえ失敗しても、復活と再生を

繰り返して、人として益々成長していきたいものです。受験を控えている3年生は、年末年始もなく自分の目標に向かって努力してきたことでしょう。調べてみると、「巳」は胎児の形から作られた文字といわれ、「産まれる」「将来がある」といった意味や「み」とも読めることから、「お金が身につく」とか「努力が実る」という意味合いもあるそうです。今の努力は必ず結果に結びつきます。もう少し続けてみましょう。

3学期は、「次のステージに向かう0学期」とも言われています。2年生はいよいよ進路を決める最高学年になり、1年生も後輩が入ってきて、自分たちが学校をリードする立場になります。3学期を次のステージに向けてしっかり充電する学期にしましょう。

元旦 余多字「拝賀式」



年末年始を沖永良部島で過ごしたので、今年も1月1日(水)余多字恒例の「拝賀式」に参加しました。今年の「初日の出」の予定時刻は、7時15分。その時間になると、字の住民がホシ橋展望所に集まって一緒にご来光を拝みます。今年は、雲が出ていたので、太陽が顔を出したのが7時30分頃でした。太陽が顔を出すとまだうす暗い海に一筋の光の道ができます。神々しくて身の引き締まる思いがしました。その瞬間に、私は沖高の発展と受験に向かう3年生の健闘を祈りました。その後、区長さんが準備されたお神酒をいただき、今年の年男と年女の方が、今年の抱負を述べました。そして最後に、字の発展と住民の健康を願って「お正月のうた」をみんなで斉唱しました。今年もいい一年になりそうな予感がしました。

1月2日 知名町「二十歳のつどい」



1月2日(木)知名町主催の「二十歳のつどい」に参加しました。晴れ着をまとった57名の新成人が参列し、今井町長の式辞、外山議長と田中教育長の祝辞の後、新成人を代表して、児玉さんと池山さんが挨拶を述べました。二人は、これまで育ててもらった地域の支援に感謝しつつ、地域に貢献できる人材になるよう努力し続けると決意を述べました。その後、「映像で綴る想い出」も上映され、地域に見守られてここまで大切に育てられてきたことがわかり、大変爽やかな思いで会場をあとにしました。

「喜界高校」生徒会との交流会



12月24日(火)午後3時より喜界高校の生徒会と本校の生徒会による「オンライン交流会」が実施されました。お互いの学校紹介から始まり、生徒会として今取り組んでいることは何か、特色のある学校行事は何か、校則の見直しや週番活動の活性化等、話題は多岐に渡り、活発な意見交換がなされました。

どちらも離島の学校なので、共通点が多くみられましたが、準制服のポロシャツの採用や夕課外の実施、生徒会役員を決めた後、生徒会長を話し合いで決める制度等、異なる点もいくつかあり、参考になったようです。喜界高校では、クラスマッチは学期毎にすでに種目が決まっています、2日間実施されており、人数の足りないチームは、先生方が助っ人として出場しているようです。

情報交換をするだけでも面白かったです。お互いのよい部分を取り入れて、生徒会のさらなる活性化が図れることを期待しています。

「生徒会リーダー研修会」



12月25日(水)島内の18名の中学生に参加していただき、本校生徒会主催の「リーダー研修会」を実施しました。3年前は、先日1年生にポスターセッションをしていただいた鹿児島大学の澤田先生とゼミの方々に協力してもらい、島内の工場見学や脱カーボンの取組についての講義等を行っていたようです。

昨年度は、原点に戻り「沖永良部島を発展させるにはどうすればよいか」について、中高生がグループに分かれて意見を出し合う研修でした。そして、今年は、研修内容から方法まで、その全てを生徒主導で考えてもらいました。

Ice Breakから始まり打ち解けた後、将来の夢や沖高への要望、そして今後のリーダー研修会への要望等「R80」を使って論理的に説明することを身に付ける研修会になりました。生徒会役員が進行役となり、また各グループではリーダーとなって中学生をサポートしながら研修を進めていました。見事な「段取り力」と「的確な支援」に本当に感心しました。中学生も充実した時間を過ごせたようで、大変中身の濃い研修になりました。

生徒会の皆さん、ご苦労さまでした。

冬課外「数学 遠隔授業」



12月25日から3日間、2年1組の冬季課外の数学の授業を利用して、試験的に「遠隔授業」に取り組んでみました。授業のメインは、オンラインで県教委の指導主事(数学)の先生に担当してもらい、アシスタントとして花田先生にサポートをお願いしました。端末で問題の説明を聞いた後、問題を解き、お互いで答えを確認し合うというスタイルで授業が進んでいきました。授業後生徒に感想を尋ねると、あまり違和感はなかったということでした。